

自然災害と共生する覚悟はありますか

平成28年6月豪雨で寸断された道路（谷内区）

本町には、一級河川の緑川や緑豊かな山々が存在します。そこで育まれる水の恵みは田畑や人々の生活を潤し、憩いの場を提供するなど私たちの暮らしに大きく関わっています。一方で、平成19年7月の洪水や平成28年6月の土砂災害といった爪痕も残してきました。昨年7月の豪雨では田口橋上流の堤防で決壊の危険が迫るなど、私たちの生活を脅かす存在でもあります。

川と共にある暮らしは、自然災害を受け入れる覚悟が必要です。いざという時に命を守るための備えについて、地域や家庭で改めて考えてみましょう。

記録的な早さの梅雨入り

例年以上に早い梅雨入りとなった今年、皆さんの災害への備えはいかがでしょう。雨の季節を迎えて、大雨や洪水、土砂災害などの危険性が高まっています。

平成28年6月の豪雨災害では、1時間当たりの総雨量が150㎜という記録的なものでした。町内でも家屋の倒壊や浸水、土砂災害など多くの被害が発生しました。

災害は、いつどこで、どのような形で発生するか予測がつかないものです。日ごろから家庭や地域防災に対する意識を高め、しっかりと準備をしておくことが大切な生命を守ることに繋がります。

町が発令する避難情報

台風や大雨などにより災害発生のおそれがある場合には、住民の皆さんを災害から保護し被害の拡大を防止するため、



町くらし安全推進室 佐々木 善平 室長

熊本県警を定年退職後、平成29年4月より現職。令和元年8月に「防災士」、令和3年3月に「地域防災マネージャー」の資格取得し、防災スペシャリストとして本町の危機管理業務を統括。

町では避難に関する情報を発令します。

町が主に発令する避難情報は、高齢者や障がい者といった避難に時間のかかる人に早めの避難を促す「高齢者等避難」（警戒レベル3）と通常の避難行動ができる人に避難を促す「避難指示」（警戒レベル4）の2つがあります。避難に関する情報が発令されたら避難行動をとりましょう。

避難情報の発令は、気象状況や河川の水位などにより判断され、町公式ウェブサイト、携帯電話などの「エリアメール」、メールアプリシステム「こうさ情報たしかめーる」などで伝達します。避難をする場合には、慌てずに回りの状況を見て行動しましょう。

コロナ禍の避難所運営

町では、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいますが、町民全員への接種完

自主防災組織の備えは万全ですか。

町内在住の防災士が、避難経路の確認や防災訓練の計画づくりといった自主防災組織の活動のお手伝いを行っています。

「防災士」は一定の防災知識や技能を認証する民間資格で、現在11人が町と連携しながら地域の防災リーダーとして活躍中です。

地域の防災力向上に取り組んでみませんか。



防災士
溜瀧 清裕 さん

●お問い合わせ先

町くらし安全推進室 ☎096 - 234 - 1167

了まではしばらく時間が必要です。昨年引き続き、感染者が訪れる前提での避難所運営が求められます。避難所での密集を避けるためにも、親族や知人の家、地域の公民館、宿泊施設などへの分散避難を検討してください。

命を守るための努力を

内閣府が示す「避難情報に関するガイドライン」では、住民などが持つべき避難に対する基本姿勢として、行政に依存し過ぎることなく、「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自主的な避難行動をとることが必要とされています。被害を軽減するのは想像力です。大きな被害が発生するときは自然の脅威が私たちの想像を上回ってしまったときです。「大丈夫」は絶対にありません。

昨今の大規模災害時には、自治体の庁舎や職員が被災し、行政機能が低下する事態も起きています。コロナ禍で他自治体からの人的支援も制限されるなど、町による避難所運営が難しいことも想定されます。そんなとき、頼りになるのが自主防災組織の存在です。

地域で災害に備える

平成28年6月豪雨から5年を前に、町内の全地域で自主防災組織が設立されています。昨今の災害でも住民主体の取り組みで難を逃れた事例があります。皆さんの自主的な行動が、町全体の防災力向上にもつながります。

自然の脅威が想像を超えてからでは間に合いません。あなたの命を守るのは自分自身だという強い覚悟を持ちましょう。

各警戒レベルに基づく町民や町の行動

※「避難勧告」は「避難指示」に一本化

	災害情報などの目安	町民の行動	町（役場）の動き
警戒レベル 5	- 大雨特別警報 - 災害が発生 - 氾濫発生情報	命を守る 最善の行動	町民の命を守る 最善の行動
警戒レベル 4	- 土砂災害警戒情報 - 災害が緊迫 - 氾濫危険水位超える	全員避難	「避難指示」の発令
警戒レベル 3	- 大雨警報 - 洪水警報 - 避難判断水位超える	高齢者などは 避難	「高齢者等避難」の発令
警戒レベル 2	- 大雨注意報 - 洪水注意報 - 氾濫注意水位超える	自らの避難行動 を確認する	- 気象情報を収集 - 避難所の開設準備
警戒レベル 1	今後気象状況が悪化するおそれ	災害への心構えを 高める	気象情報を収集

内閣府が示した「避難情報に関するガイドライン」について詳しくは

内閣府「防災情報のページ」をご確認ください。

内閣府 避難指示

検索



防災マップを広げてみよう

災害から自分の身を守るためには、普段から地域に潜む危険を理解し、刻々と変化する情報と冷静な判断で安全に避難することが大切です。防災マップは皆さんの身近な場所の災害リスクを知り、いざという時の行動の手助けとなるものです。いつか必ず起こる災害に備えて、今できることをあなたの大切な人と一緒に考えてみてください。



▲甲佐町総合防災マップ

緑川流域に12時間総雨量595mmの大雨が降った場合の浸水域を予測したもの。町指定避難所なども記載されています。



「甲佐町総合防災マップ」はこちらからご覧いただけます▲

日ごろの備えが冷静な判断につながる

町では、令和2年9月に緑川の氾濫による浸水想定区域を予測し、地図上に可視化した「甲佐町ハザードマップ」を策定しました。「避難の心得」や避難に時間を要する「要配慮者への対応」などと共にまとめた『甲佐町総合防災マップ』を各戸へ配布しています。

防災マップなどを見ることで、自分が住んでいる地域にどんな災害リスクがあるのかを理解しておきましょう。また、自分の家や家族の状況などを踏まえて、どんな避難がベストなのか検討してください。住宅の耐震性や食料の備蓄など、自宅の安全が確認できる場合は「在宅避難」も選択肢の1つです。

大切なのは、「事前の準備」と「早めの避難」。災害の危険が迫るとともに避難の選択肢が狭まります。ためらわずに冷静な判断ができるよう、今のうちに避難を始めるタイミングや避難所までの経路について家族や友人と話し合ってみましょう。

読んでおきたい災害特集

広報ゆのまえ2020年 8月号

熊本県南豪雨リポート 明日へつなぐために。



令和2年7月の豪雨災害は、球磨川流域を中心に多くの自治体に甚大な被害をもたらしました。発災から1月足らずという短い期間で作上げられた記事は、被災状況の記録と共に、改めて早めの避難を呼び掛けています。コロナ禍でボランティアが不足する中、人と人のつながりに光を当てて、湯前町の被災者に勇気を与える記事となっています。

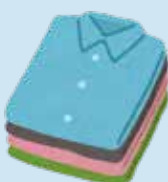


「広報ゆのまえ」はこちらからご覧ください▲

■災害に備えるチェックリスト ☒

「非常持出品」は、避難するときにまず持ち出すべきものたちです。リュックに入れて、寝室や玄関などの持ち出しやすい場所に置いておきましょう。大きさや重さを運ぶ人に合わせることも重要です。

災害時には公的な支援物資がすぐには届かないかもしれません。避難後の生活を支える食料や水を最低でも3日分備えましょう。家庭によって必要なものは変わります。あなたに必要な備えを確認しましょう。

すぐに持ち出すもの（「非常持出品の一例」）				感染症への備え
 □ 携帯ラジオ	 □ 懐中電灯	 □ 歩きやすい運動靴	 □ 予備電池/携帯充電器	 □ マスク
 □ 飲料水	 乾パン、缶詰、レトルト食品、チョコレートなど □ 非常食	 □ ヘルメット・軍手	 ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など □ 救急セット	 □ 手指消毒液
 通帳、印鑑、現金、診察券、マイナンバーカードなど □ 貴重品	 □ ウェットティッシュ/タオル	 □ 毛布/寝袋	 □ 持病の薬・お薬手帳	 □ せっけん
 □ 衣類・下着	 □ 歯ブラシなど	 □ 防災マップ	 □ スリッパ	 □ 体温計

広報せいよ2019年 7月号

特集 夏が、来る。

平成30年7月豪雨で大きな被害を受けた愛媛県西予市。あっという間に川の水位が増え、濁流が襲って来たあの日の出来事を風化させないために一。そんな思いから作られた特集記事です。被災しながらも立ち上がった住民や復旧作業に尽力した消防団員など、悲しみながらも励まし合い、がむしやりに歩み続けた市民の姿を伝えています。



「広報せいよ」はこちらからご覧ください▲

他自治体の広報紙から学ぶ。

